
ポケットモンスター—愛と勇気の物語—

邪神

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケットモンスター—愛と勇気の物語—

【Nコード】

N9751X

【作者名】

邪神

【あらすじ】

カントー地方のマサラタウンに住む少年・ナオトは、10歳になりポケモントレーナーとして旅立つことを許可される。ナオトの幼馴染でライバルでもあるコウイチもポケモントレーナーとして旅立つ。ナオトの夢は最強のポケモントレーナーになること。その夢を叶えるため、ナオトの冒険が始まる。アニメと世界観が同じ設定のため、オリジナルの街、バトルでの「かわせ!」、タケシの弟・ジロウや無印編のヒロイン・カスミが登場します。アニメの主人公・サトシは『ベストウイッシュ』でイッシュ地方を旅しているので名

前のみ登場します。ストーリーはゲームのファイアレッド・リーフグリーンにはば準じていますが、野生ポケモンなどの出現地などが異なります。また、カントー地方以外のポケモンも登場します。恋愛描写あります。

主な登場人物

ナオト

物語の主人公。

カントー地方のマサラタウンに住む少年。10歳になったため、ポケモントレーナーとして旅立つことを許可される。許可される以前から本を読んだりトレーナーズスクールに通っていたため、ポケモンやバトルに関する知識は豊富。正義感が強く心優しい性格だが、冷静でクールな一面も持ち合わせている。一人称は僕。同じマサラタウン出身のトレーナー・サトシに憧れている。サトシと同じく、幼少期にジョウト地方の伝説のポケモン・ホウオウを見たことがある。夢は最強のポケモントレーナーになること。現在の手持ちポケモンはゼニガメ（オス）。

コウイチ

ナオトの幼馴染でありライバル。

ナオトと同じマサラタウンに住む少年。ナオトと同じ日に生まれた。10歳を迎えたため、ポケモントレーナーとして旅立つことを許可される。ナオトとは違い、ポケモンやバトルに関する知識はほとんどないが、相性や特性は理解しており、ポケモンを愛する心は誰にも負けない。ナオトとは仲が良い。優しい性格だが、短気な部分がある。一人称は俺。夢はトレーナーの頂点を立つこと。現在の手持ちポケモンはヒトカゲ（オス）。

アサミ

物語のヒロイン兼ナオトのライバル。

カントー地方のホワイトタウン（架空の街）出身の少女。ポケモン

トレーナーとして旅立ったばかりだが、ナオトとコウイチの先輩であり、すでにジムバッジを2つゲットしている。最初にもらったポケモンはメスのフシギダネ。ナオトと同じくポケモンやバトルに関する知識は豊富。おっとりとした優しい性格だが、芯は強く怒らせると怖い。一人称は私。

現在の手持ちポケモンはフシギソウ（メス）・オニドリル・ナゾノクサ・チョンチー。

エリコ

ナオトの母。

ただの主婦に見えるが、実はかつては凄腕のポケモントレーナーで、13歳の時にカントー地方のポケモンリーグで優勝し当時の四天王を全て倒した過去を持つ。トレーナーとして将来を期待されたが、当時のチャンピオンのポケモンを一体も倒すことができずに敗北し、トレーナーとして未熟だったことを思い知られて引退（そのことはナオトには話していない）。その後結婚し、ナオトを出産。

出産してすぐに夫を亡くしたため、女手1つでナオトを育てた。現在は会社員であるが、ポケモンリーグから過去のトレーナーとしての実績を買われて、トキワシテイのジムリーダー就任や四天王就任の要請が来ている。サトシの母・ハナコとは友人で、チアキとは親友でもありかつてトレーナーとして競い合ったライバルでもある。

オーキド博士とも仲が良い。年齢は33歳。

トレーナーとして最初にもらったポケモンはオスのフシギダネ（オーキド博士がプレゼントしたもの）で、現在はフシギバナに進化している。手持ちポケモンは、フシギバナ（オス）・ピジョット（メス）・スリーパー（メス）・ゴローニャ（オス）・ギャロップ（メス）・ギャラドス（オス）。他にも多数のポケモンがいるが、オーキド博士の研究所に預けられている。

チアキ

コウイチの母。エリコとは親友でもある。

息子には秘密にしているが、エリコと同じく自身もかつてはポケモントレーナーで、カントー地方のポケモンリーグに出場し準決勝まで勝ち進んだが、エリコに敗北しトレーナーを引退した過去を持つ。現在はマサラタウンの郵便局員として勤務している。年齢は33歳。トレーナーとして最初にもらったポケモンはメスのヒトカゲ（オーキド博士がプレゼントしたもので、現在はリザードンに進化している。手持ちポケモンは、リザードン（メス）・ゲンガー（オス）・エレキブル（オス）・ケンタロス（オス）・モジャンボ（メス）・パルシェン（オス）。他にも多数のポケモンがいるが、オーキド博士の研究所に預けられている。

オーキド・ユキナリ

通称・オーキド博士。またはポケモン川柳の人。

マサラタウンに研究所を構え、日々ポケモンの面倒を見ながら研究を進めている、ポケモン研究の世界的権威。親しみやすく、優しい性格。年齢は55歳。

毎年マサラタウンの子供が10歳になった日にポケモントレーナー修行の旅に出かけるため、基本的にはフシギダネ・ヒトカゲ・ゼニガメのいずれかをプレゼントしている（例外はピカチュウをプレゼントしたサトシ）。

タマムシ大学出身で、シンオウ地方のマサゴタウンに住むナナカマド博士は先輩に当たる。またジョウト地方のウツギ博士はかつての助手でもある。

マサラタウン、始まりの白（前書き）

はじめまして！

ポケットモンスターの世界へようこそ！

わしの名前はオーキド、皆からポケモン博士と慕われておるよ。

この世界には、ポケットモンスター…縮めてポケモンと呼ばれる生き物達がありとあらゆるところに住んでいる！

そのポケモンという生き物を人はペットにしたり、勝負に使ったり、そしてわしはこのポケモンの研究をしているという訳だ。

では、はじめに君の名前を覚えてもらおう。ふむ……、ナオトくんというんだな！

この子は君の幼馴染でライバルでもある。名前はなんだったかな？ふむ……コウイチくんという名前だ！

ナオトくん！いよいよ君の物語が始まる。夢と冒険とポケットモンスターの世界へレッツゴー……。

マサラタウン、始まりの白

マサラタウン…ここはまっさらで白い、始まりの街。

この町に住む少年・ナオトは10歳になり、ポケモントレーナーとして旅立つことを許可される。また、近所に住む幼馴染のコウイチも同じだ。

ナオトは旅立つ前日、ワクワクして眠れずにいた。トレーナーとして旅立つために母のエリコが用意してくれたリュックサックや服の確認を念入りにする。

「タウンマップ・きずぐすり・なんでもなおしはOK。モンスターボールはオーキド博士からもらえるし、全部使ってもフレンドリィショップで買えばいいし……。服はピッタリだし。うん、大丈夫！」

確認を済ませたナオトはリビングに降りた。

「ナオト、いよいよ明日ね」

エリコがテーブルに夕食を並べながら言った。

「うん！どんなポケモンに出会えるか、楽しみでワクワクするんだ」

ナオトは夕食を食べながら笑顔でそう語った。

「お母さんもナオトの気持ちわかるわ。旅立つ前の日、お母さんもどんなポケモンに出会えるか、楽しみで仕方なかったし、初めてもらえるポケモンはどれにするか迷ったものよ」

エリコはゆっくりと夕食に手をつけながら言った。

「初めてもらったポケモンは何だったの？」

ナオトが尋ねる。

「フシギダネよ。研究所に行ったら懐かれちゃって、お母さんもフシギダネが気に入ったから」

エリコが写真を取り出してナオトに見せた。

その写真にはトレーナーとして旅立つ日に撮られたもので、幼い頃のエリコとパートナーのフシギダネが写っていた。

「へえ…」

ナオトは感心しながら写真をエリコに返した。

「ナオトはもらうポケモン、何にするか決めてるの？」

エリコが今度は本を渡しながら聞いた。本の表紙には「トレーナーマニユアル」と書かれていた。

「うん、ゼニガメに決めてる。どれにしようか、本当にずいぶん悩んだんだけどね」

ナオトは本を見ながら答えた。

カントー地方でポケモントレーナーとして旅立つマサラタウン出身

の子どもには、オーキド博士からフシギダネ・ヒトカゲ・ゼニガメの3つのポケモンのいずれかがプレゼントされる。ただし例外もあり、同じマサラタウン出身でナオトが憧れているトレーナー・サトシはピカチュウをプレゼントされている。

「ふーん、ちゃんと決めているなら大丈夫ね」

エリコは本を本棚に戻して言った。

「大丈夫だよ、お母さん。ごちそうさま」

夕食を食べ終えたナオトが言いながら自分の部屋に戻っていく。

「ナオト！明日はちゃんと起きるのよ」

「わかってるよ。おやすみなさい、お母さん」

エリコの大きな声にナオトは手を振って答えた。

ガチャリと扉が閉まる音が聞こえる。エリコは後片付けを済ませて、リビングに飾られている夫の写真をテーブルに置いて話し始めた。

「あなた、いよいよ明日にナオトが旅立つわ。私も心配だけど、あなたと私の子だから大丈夫よね」

写真を元の場所に戻し、エリコは眠りについた。

翌日、空は快晴。旅立ちの日にピッタリの天気だ。

起床し準備を整えたナオトは、エリコと一緒にオーキド博士の研究所に向かっていた。

研究所に到着したナオトを博士の助手・ケンジが出迎えた。

「おはよう。いらっしやい、ナオトくん」

「おはようございます、ケンジさん」

ナオトはお辞儀をして挨拶を返した。

「いよいよだね、楽しみだろ？トレーナー修行の旅に出るのは」

「はい！」

ケンジの問いかけにナオトは笑顔で頷いた。

「おはようケンジくん」

「おはようございます、エリコさん」

エリコが挨拶するとケンジは丁寧にお辞儀を返した。

「オーキド博士は？」

「今図鑑とポケモンの準備をしています。もうすぐ来ますよ」

エリコが尋ねると、ケンジが答えた。

すると扉が開き、中からオーキド博士から出てきた。

「おお、ナオトくん！待たせてしまったな」

オーキド博士がポケモン図鑑とモンスターボールを持ちながら言った。

「いいえ、とんでもないです。おはようございます、オーキド博士」

「うん、おはよう。おや：エリコさんも来ていたんじゃない」

ナオトが挨拶するとオーキドも挨拶を返す。

「ええ、息子の旅立ちですからね」

エリコが笑顔を浮かべて言った。

「そうじゃな…。それでは君に最初のポケモンを渡すことにしよう。ケンジ！」

オーキドの言葉にケンジが頷き、机の上に置かれている3つのモンスターボールのスイッチを押した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9751x/>

ポケットモンスター—愛と勇気の物語—

2011年11月11日18時18分発行